

1.本園の教育目標

- ☆ 健康で安全な暮らしのできる子ども
- ☆ 自分のことは自分でできる子ども
- ☆ 友達と仲良くできる子ども
- ☆ 自分から進んで取り組み、工夫しながら遊べる子ども
- ☆ 心情豊かな子ども

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的目標や計画

- ・遊びや行事の中で、縦割り保育を計画し、実践する。
- ・教職員間の連携を密にし、子ども理解や援助の方法を共通理解する。

3.評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	達成及び取り組み状況
(1) 日々の生活や遊び、行事の中で異年齢の縦割り保育を計画、実践することができたか。	・1学期は今までのように5歳児と3歳児のペアでの生活面での関わりが主だったが、運動会への活動をきっかけに5歳児と4歳児の関わりが多くなり、その後の遊びにつながった。3学期には、園庭や保育室でも一緒に遊ぶことが多くなった。 ・異年齢での活動を最初は3学年で行ったが、次年度を考え、3歳児と4歳児で行うことにし、定期的に行ったが、始める時期が遅く、回数も少なかった。 ・実際にしてみると手探りの状態で、発達段階の違いを考慮し、もっと考察が必要だった。
(2) 教職員間で子ども理解や援助の方法を話し合い共有することができたか。	・今までは特別支援の話し合いが主だったが、一緒に活動し、振り返りをする中で、すべての子どもが話し合いの対象となり、今まで以上に子どもについて語り合う機会が増え、共感・共有することができた。 ・子ども同士、他クラスとの関わり、担任の先生以外からの視点など、子どもにとっても見てもらっているという安心感が生まれたのではないかな。
(3) 異年齢の交流の活動の様子を保護者にも伝え、理解を得ることができたか。	・個別では、日々の子どもの様子を伝えることができたが、異年齢の活動について伝える機会は少なかった。 ・2学期から、子どもたちの園での様子を伝えるため、インスタグラムを活用することにした。

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	・令和8年度の縦割り保育に向けて、何からしていけばいいのか、なかなか見えず、1学期は具体的に始めることができなかった。年齢別の発達と個々の子どもの成長を考えると、異年齢での活動と年齢別の活動の両方が必要だと思った。
-----	---

5.今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
縦割り保育の進め方を考える。	・異年齢での活動と年齢別の活動を組み合わせて、保育を進める。 ・一人一人の子どもに対し全職員で関わっていく。

6.学校関係者の評価

令和8年度からの新制度の施設型給付幼稚園への移行に向かい、今まで以上に異年齢の関わりを深めるよう、行事等だけでなく、日々の生活や遊びの中でも異年齢で活動する機会を多く持ち、その様子を保護者に伝えたり、インスタグラムで発信したりすることで、安心して次年度がスタートできるようにした。

また、行事や子どもたちの成長についてアンケートをとる機会を増やし、保護者の意見を取り入れたり、疑問に答えたりすることで、保育についての理解を得ることもできた。

7.財務状況

公認会計士による監査にて、適正に運営されていると認められている。